



### 今月の主な目次

○秋播き飼料作物で自給の向上

○雌牛ジェニーとエルメンの会話

○トウモロコシサイレージで乳量アップを目指すには

○新商品 サイレージ二次発酵抑制資材「サイロ見張番」発売のご案内

### 時の話題

## 世界を食べている日本

戦後は米の増産にまい進し、国民の食料確保カロリー確保が進められ、蛋白源と言えば塩魚と鯨が満たした時期がそんなに遠かったのでしょか。今や季節感も乗り越え世界中からあらゆる食材が日本に入り、畜産物生産原料も海外に依存し、理由にかかわらず世界を食しているのが現実ではないでしょうか。食物の旬と聞いても、今の若い世代には、店に出ているときが旬とでもいいかねない時代となっています。海外旅行の影響にもより、新しい食べ物それに食べ方がファッションにまでなっているこの頃です。又、ワールドカップが終了致しましたが、畜産関係者として、韓国で発生している口蹄疫が人の大きな移動で心配な日々でありました。食品の表示問題で消費者不安が高まっている現状ですが、2000年4月から施行されている新JAS法では、食品の表示の充実強化により、表示対象品目64品目、うち青果物の原産地表示9品目が、改正後は一般消費者向けの飲食品、全ての生鮮食料品については原産地を表示、有機食品については有機食品の規格を制定、第三者認証機関が圃場毎に生産者を認定、認定

された生産者が生産したものの印に「有機」と表示流通することとなり、有機の文字も店舗で見かける機会が少なくなりました。生鮮食品の原産地表示ですが、野菜・果物などの農産物は、国産品であれば都道府県名、輸入品であれば「アメリカ産」「米国産」などと表示されます。但し、一般的に知られている地名を表示することもできます。畜産物では国産品なら国産である旨を、輸入品なら原産国名、生体輸入なら牛であれば3ヶ月以上後にと畜した物が国産品と見なしても良いこととなっており、国産品は主たる飼養地が属する都道府県名、市町村名、その他の一般に知られている地名を原産地と表示しても良く、その場合国産である旨の記載を省略できます。その他JAS法の改定項目がありますが、消費する側として、美味しく安心・安全・価格と、世界を食べている日本にとって消費者の満足を満たすのは大変ですが、日本国内で生産していることの良いことは、消費者に生産者の顔が見え、より美味しく安心安全であることがアピール出来ることではないかと思えます。顔の見える農業生産を進めて行くのが今後の道筋の一つではないでしょうか。

(東北事業部長 内山 幹夫)